

矢作川学校の開校と運営上の諸課題

Opening of the Yahagi River School and some problems of its management

梅村 淳二

Junji UMEMURA

はじめに

河川法の改正とともに21世紀の環境時代を迎えて、川を取り巻くさまざまな課題が指摘されている。子供の自然体験不足、水源林の放置と水量不足、生活排水等による河川の水質汚濁、濁水の長期化と生物相の変化、河川の水質汚濁と内湾の水質悪化等である。

戦後、半世紀以上にわたり豊かな生活を追い求めた結果、経済的には豊かになったが、気づいてみたら貴重なものを失っていた。その一つが川や海を汚してしまったことである。

矢作川の場合、水源林は放置され水不足が続くとともに洪水ごとに汚濁が長期化し、生物相の貧弱化の傾向が認められる。また、都市化の進展とともに身近な河川や里山が忘れられている。川舟を操る漁師も姿を消し、河原で遊ぶ子供の姿も見られなくなった。里山もフジヤノイバラが繁り、子供が遊べる環境にない。子供にとって自然は隔離された存在になっている。

21世紀の教育改革の進むなか、平成14年4月1日から小中学校で新しく身近な課題に取り組む総合的学習と学校週5日制が定着した。この機会に矢作川流域の子供たちに川に関心を持ってもらい、河川や里山の体験を通して、自然や文化を守るとともにそれらを継承する子供を育成するために、「矢作川学校」を開校した。

開校式は、平成14年5月11日（矢作川の日）に古岸水辺公園で開催された矢作川「川会議」で挙行された。川会議の開催趣旨は、矢作川流域の上・中流域に位置する豊田加茂広域圏で自然保全活動を実施している諸団体ならびに国・県・市の河川関係者が一堂に会し、今後の活動のあり方を探るとともに「森 川 海」の健全な水環境を創出するという共通理解にあった。この川会議の中では三つの事業が計画され、矢作川学校開校式はその内の一事業としておこなわれた。当日の日程は次の通りであった。

越戸公園におけるイベント

9:00~12:00 親子マス釣り大会（分流）、矢作川歴史探訪（前田公園方面）

古岸水辺公園における矢作川学校開校式とシンポジウム

15:45~16:00 矢作川学校開校式

16:00~16:30 基調講演 講師 阿部夏丸氏

16:30~17:30 シンポジウム「矢作川への期待と展望」

17:30~19:30 交流パーティー



写真1 矢作川学校開校式当日のシンポジウム

矢作川学校開校式では、矢作川研究所長の松武義總氏（当時）の挨拶に続いて、新見幾男理事が設立までに関係者の幅広い協力があつたことと学校の概要を報告した。続いて鈴木公平理事長（豊田市長）は矢作川学校の開校の意義と今後の役割と期待について述べた。

最後に矢作川学校の校長である筆者は、矢作川の現状と課題を指摘するとともに、今後は行政関係者の積極的な協力を得ながら、矢作川流域の多くの自然愛護団体と手を携えて矢作川学校を運営する決意を力強く述べた。

矢作川学校の概要

校名 矢作川学校
事務局所在地 〒471-0025 豊田市西町2-19
豊田市矢作川研究所内
電話 0565-34-6860 FAX 0565-34-6028
E-mail kawagaki@hm7.aitai.ne.jp

理事会

理事長(1名) 豊田市長
副理事長(2名) 枝下用土地改良区理事長
矢作川漁業協同組合長
常務理事(1名) 矢作川「川会議」実行委員会代表
理事(14名) 豊田市矢作川研究所長 豊田市矢作川
研究所顧問 教育委員会教育担当専門監 小中学校
長会長 矢作川天然アユ調査会長 矢作川漁業協同
組合理事 豊田市自然愛護協会会長 古岸水辺公園愛
護会長 波岩水辺公園愛護会長 石倉水辺公園愛護
会長 アド清流愛護会長 御船せせらぎ広場愛護会
長 ちごの口まちづくり協議会長 豊田市河川課長
(平成15年度から愛知県豊田加茂建設事務所、西広
瀬町矢作川水辺愛護会長および百々水辺愛護会長が
加入)
監査(2名) 豊田市建設部河川担当専門監
梅坪有志会水辺愛護会長

職員

校長(1名) 矢作川天然アユ調査会長(当時、現矢作
川研究所長)
教頭(2名) ちごの口まちづくり協議会員 矢作川天然
アユ調査会員
講師 豊田市矢作川研究所職員(8名) 豊田市役所
職員(6名) 矢作川天然アユ調査会員(8名) 豊
田市自然愛護協会員(12名) 少年少女発明クラブ
員(1名) アド清流愛護会員(1名)

事務局(4名)

事務局長 豊田市矢作川研究所事務局長
事務局員 豊田市矢作川研究所(1名) 矢作川天然ア
ユ調査会(2名)

構成

矢作川学校は、矢作川「川会議」実行委員会12団体と
設立趣旨に賛同する団体及び個人で構成する。発足年度
の12団体は次の通りである。

矢作川を筏で下る会、矢作川漁業協同組合、矢作川天
然アユ調査会、豊田市矢作川研究所、豊田市河川課、古
岸水辺公園愛護会、波岩水辺公園愛護会、石倉水辺公園
愛護会、アド清流愛護会、梅坪有志会水辺愛護会、御船
せせらぎ広場愛護会、ちごの口まちづくり協議会。

平成15年度から新しく愛知県豊田加茂建設事務所と西
広瀬町矢作川水辺愛護会、百々水辺愛護会が加入し、15
団体になった。

主な事業内容

- ・出前講師の派遣：小中学校の総合的学習、コミュニテ
ィー等の自然・環境学習など
- ・子供が川に親しむイベントの開催：親子ニジマス(ア
マゴ)釣り大会、アユの友釣り講座(子供・大人)、
掻い掘り大会など
- ・実行委員の研修：河川探訪など

講師依頼の方法

- ・小中学校等から矢作川学校事務局へ分野、期日、時間
等の希望を電話、FAX等で申し込む。
- ・矢作川学校事務局から講師へ連絡し、日程等の調整を
し、折り返し学校に通知する。
- ・講師が決定したら学校の担当者は講師と直接連絡をと
り、細部の打ち合わせをする。

講師謝礼 1回3,000円の図書券

平成14年度 矢作川学校の実績

1. 小中学校等への出前授業

平成14年5月11日の開校日以後の出前授業回数は33回
で内訳は次のようになる。小中学校の総合的学習が圧倒
的に多く全体の80%弱に達している。



写真2 総合的学習の出前授業風景

表1 平成14年度矢作川学校出前授業.

期日	授業内容	実施会場	出前講師
6月5日	カブトムシの育て方	豊田市立東広瀬小	岩月 学
6月7日	生物教育研究会講演	高校生物研究会	間野 隆裕
6月12日	籠川の水生昆虫	豊田市立加納小	田中 蕃
6月16日	矢作川学校の開校	渥美町華山会館	梅村 諄二
6月19日	逢妻女川の自然	豊田市立堤小	梅村 諄二
6月20日	樹木の話	豊田市立堤小	吉田万佐敏
7月3日	豊田市の自然	豊田市立美里中	梅村 諄二
7月4日	水生生物調査実習	豊田市立青木小	白金 晶子
7月11日	河川の生き物	豊田市立益富中	田中 蕃
7月12日	水生生物の解説	豊田市立東広瀬小	梅村 諄二
7月27日	御船川の水生物	豊田市立青木小	梅村 諄二
7月27日	水生生物採集実習	豊田市立青木小	藤井 泰雄
7月31日	環境教育の取り組み	渥美町立泉小	梅村 諄二
8月3日	水生生物親子観察会	越戸公園	内田朝子ほか
8月6日	学校付近の植物	豊田市立青木小	洲崎 燈子
8月17・18日	アユ釣り講習会	越戸公園	新見克也ほか
8月29日	水生生物調査方法	豊田市立東広瀬小	白金 晶子
9月5日	水生昆虫調査実習	豊田市立九久平小	内田 朝子
9月7日	矢作川の魚捕り実習	石野交流館	藤井 泰雄
9月12日	逢妻女川の魚類	豊田市立浄水小	中根耕造ほか
9月18日	水生生物実習	豊田市立加納小	内田 朝子
9月24日	学校周辺の植物	豊田市立堤小	吉田万佐敏
9月30日	ホタルの質問に答える	豊田市立加納小	間野 隆裕
10月1日	地球環境について	豊田市立井郷中	宮田昌和ほか
10月6日	掻い掘り大会	越戸公園	阿部夏丸ほか
10月16・17日	小峰川の雑魚実習	豊田市立東広瀬小	水野 修ほか
10月29日	河川水質について	豊田市立井郷中	白金 晶子
11月19日	矢作川の魚類と水質	豊田市立井郷中	山本 敏哉
12月5日	昆虫の生命活動	豊田市立土橋小	田中 蕃
12月11日	植物, 昆虫, 野鳥等	豊田市立若林東小	深見 弘ほか
1月18日	矢作川の今と昔	豊田市立西広瀬小	梅村 諄二
2月18日	カメムシについて	旭町立小渡小	田中 蕃
3月23日	昆虫相から見た森	七州城まちづくり	間野 隆裕

- ・総合的学習の出前講師 26回(78.8%)
- ・教員研修の出前講師 3回(9.1%)
- ・地域住民の環境学習の出前講師 1回(3.0%)
- ・水生生物の親子観察会, アユの友釣り講座, 掻い掘り大会等 3回(9.1%)

また, 小学校・中学校・高校・成人別に見ると, 小学校24回(72.7%), 中学校5回(15.2%), 高校1回(3.0%), 成人3回(9.1%)で, 小学校中心の出前授業になっている.

2. 掻い掘り大会の概要

矢作川学校主催の掻い掘り大会は, 10月6日(日)に越戸公園前で実施した. 大会の1か月前に報道機関に配布した内容は次の通りである.

件名 矢作川学校 掻い掘り大会の開催
内容 魚など水生生物を採集しながら, 矢作川で遊び,

生物に関心を深め, 矢作川の自然を考えるために開催する. 矢作川の分流400mを締め切り, 川を干して魚や昆虫をつかみ, つかんだ魚などの解説, つかんだ魚を食べるコーナー, 飼育説明コーナーを設ける.

- 1) 日 時 10月6日(日) 午前11時
- 2) 場 所 矢作川越戸公園
- 3) 対 象 制限なし. ただし, 未就学児は保護者同伴
- 4) 参加費 一人100円(傷害保険料他)
- 5) 持ち物等 タモ網 バケツ 水に濡れても良い服と靴(サンダル不可)
- 6) 申し込み・問い合わせ 矢作川学校(豊田市矢作川研究所内)まで

水遊びをするには時期的にやや遅かったので, 気温や水温を心配したが, 当日は気温も上がり掻い掘り大会日



写真3 かいぼり大会の受付風景



写真4 減水した分流の魚釣り風景

和であった。水量も比較的少なく、越戸公園前の分流を重機で堰き止めることも短時間でできた。初めての掘り大会であったが、市の広報誌等による紹介もあって、400人近くの参加者が越戸公園に集まった。減水も早かったので計画通りの手網による魚類等の採集、ミニ水族館による水生生物の観察、そして川魚の調理と試食の三つの体験をすることができた。川に入って魚を追いかけて網で捕獲する面白さを初めて体験した子供が多く、来年も是非来たいという声があちらこちらから聞こえた。魚類の採集は初体験の子供が多く、捕獲技術は高いとは言えないが、個体数が多く捕獲できたので、子供たちも魚とのふれ合いは十分できたと思われる。捕獲した生き物は水槽に入れ、魚類・水生昆虫・カニ類・カイ類等の和名、特徴等について講師が解説した。各自が採集した個体であるので関心も高く、講師達にさまざまな質問を投げかけていた。なかには、魚類について事前学習をしてきて、雌雄の見分け方、飼育方法や餌の与え方、産卵

のさせ方等についての鋭い質問もあった。

今大会で採集できた魚類の種類・尾数・大きさは次の通りである。

表2 矢作川越戸公園分流の魚類相。

和名	尾数	大きさ(全長)
ウナギ	2	52cm, 62cm
アユ	20	20cm大が多い
オイカワ	50	10~12cm
カワムツB	30	5~10cm
カマツカ	30	8~12cm
コウライモロコ	10	6~8cm
ニゴイ	17	13~20cm
コイ	3	13~15cm
ギンブナ	15	9~12cm
スジシマドジョウ	1	11cm
シマドジョウ	1	7cm
ナマズ	5	13~16cm
ギギ(ハゲギギ)	30	6~17cm
アカザ	50	6~10cm
ブラックバス	42	8~16cm
ブルーギル	5	7~9cm
カワヨシノボリ	60	5~7cm
ウキゴリ	5	5~7cm
計18種	376尾	

18種376尾に達しているが、大物は全長62cmと52cmのウナギ2尾であった。捕獲した小学生の女の子は、家に持ち帰っても調理することができないということで、大会本部で蒲焼にした。小さく切って参加者で試食し、大変好評であった。オイカワ、アユ、カマツカ等もその場で塩焼き、唐揚げにして試食したり、水槽に入れて観察したりした。また、家に持ち帰って飼育する子供もあったが、多くは河川に放流した。特に環境省の絶滅危惧類、愛知県準絶滅危惧のアカザ(50尾捕獲)、環境省絶滅危惧類のスジシマドジョウ大型種(1尾捕獲)、豊田市配慮種のシマドジョウ(2尾捕獲)の3種は、観察後川に放流した。予想以上にアカザの生息数が多いことも確認できた。外来種のブラックバス(全長15~25cm)も予想以上に多く、42尾を確認した。一般魚種の稚魚を食べるブラックバスがそのまま増殖すると、越戸公園一帯の魚類相もかなり影響を受けることが考えられる。

大会を開催するに当たっては、小説家であり淡水魚類研究家の阿部夏丸氏および矢作川天然アユ調査会、各愛護団体、矢作川漁業協同組合平戸橋支部、矢作川「川会議」等の関係者の全面的な協力を得ることができた。

掻い掘り大会の成果と残された課題

1. 掻い掘り大会参加者のアンケート結果から

このアンケートは大会当日用紙を配布し、帰りに回収したものである。

1) 掻い掘り大会の参加者の年齢層は。

	10代未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	計
男	81	19	9	37	28	6	5	1	186人
女	61	5	8	43	7	5	0	0	129人
計	142	24	17	80	35	11	5	1	315人
%	45.1	7.6	5.4	25.4	11.1	3.5	1.6	0.3	100

男：女では6：4になり、10代未満が45%を占め、小学生が多かった。30代・40代が比較的多いが小学生の親である。意外に中学生が少なかった。

2) 掻い掘り大会はどこで知りましたか。

	回答数	%
市広報	52	59.9
新聞	5	5.7
学校からの連絡	16	18.4
人から誘われて	13	14.9
その他	1	1.1
計	87人	100

市の広報誌から知った人が約6割あり、今後も河川のイベント等は広報課に資料提供することが望まれる。

3) 日ごろ矢作川（川辺）に接する機会がありますか。

	回答数	%
ほとんど行かない	28	32.2
年に1回程度	11	12.7
年に数回	27	31.0
月に1回程度	8	9.2
月に数回	8	9.2
週に1回程度	2	2.3
週に数回	1	1.1
ほぼ毎日	2	2.3
計	87人	100

掻い掘り大会に参加した子供でも、日ごろは川に接する機会が少ない。「ほとんど行かない」から「年に数回まで」で75.9%を占める。4人のうち3人までが川とのつながりが少ない時代になっている。

4) どのような形で川に接していますか。

	回答数	%
スポーツで河川敷を利用	9	8.2
バーベキューやキャンプ	18	16.5
散策	22	20.2
魚釣り	18	16.5
釣り以外の魚捕り	19	17.4
虫取り	10	9.2
河川敷清掃	3	2.8
その他	10	9.2
計	109人	100

河川敷でのスポーツ、キャンプ、虫取り等をまとめると54.1%に達する。川に入っただけの魚捕りは33.9%と少ない。

5) 今後も掻い掘り大会があれば参加しますか。

	回答数	%
出席する	78	89.7
出席しない	1	1.1
分からない	8	9.2
計	87人	100

「次回も出席したい」とした人が約9割あり、「分からない」が約1割、「出席しない」が1人であったことを考えると、今回の魚つかみが子供にとっていかに楽しかったかがうかがえる。今後も継続していけば、川や生き物とのふれ合い活動が一層活発に展開すると思われる。将来に向けて、川の自然や文化を守り育てる人づくりには、掻い掘り大会は欠かせない事業と言える。

2. 掻い掘り大会の運営上の諸課題

1) 河川のイベントは天候に左右されやすいので、計画通りの実施が難しい。当日だけでなく数日前からの増水・濁水とも関係するので、予定が変更されやすい。特に矢作川の場合は、一度大雨が降ると長期汚濁につながりやすいので、大幅な計画変更が余儀なくされる。参加者への連絡等が大変煩雑になる。

2) 子供を対象にした河川のイベントは、特に安全が求められる。事前準備、当日の準備に万全を期すためには、時間と人が必要となる。事前の河川清掃、河畔の草刈等が広範囲にわたるので、大勢のボランティア等の協力者を集めなければならない。

3) 個人の持参物を除いて、野外であるので諸準備が大掛かりになり、予想以上に予算が大きくなる。水を堰き止めるための大型重機の借用、観察用の大型水槽の購入

と設置場所の確保、大型の網類、調理用設備や魚焼き施設の設置等である。

4) 掘り大会等の可能な場所が限られている。今回の越戸公園前の分流は、年間を通じて学校関係、子供会、交流館、各種団体等の観察会その他が頻繁に行われている。度重なるために期日の競合や捕獲による生物相の貧弱化が大きな問題になっている。安全な場所、駐車場、集合場所、豊富な生物相、観察や採集のしやすい河川形態、適度な水量・流速・水深等を考えると適当な会場は少ない。今後は安全な観察会ができる場所を計画的に整備することが必要である。

5) 日ごろから各種団体がお互いに連携して、事業ができる体制を整えておく必要がある。長期にわたり事業を成功させるためには、日ごろからの協力体制を確立しておかないと大きなイベントは成功しにくい。

6) 一つの事業が終了したら、それぞれの立場から評価・反省をして、改良すべき事項は必ず改めて次回を迎える謙虚さが必要である。これがないと成果も上がらないし、一時的な花火になりやすい。

7) 子供を対象にした河川のイベントは、夏休み中が望ましい。父母の協力も得やすいし、水温も高いので子供の健康への影響も少ない。しかし、夏休み中はアユの最盛期であり、友釣り専用区内では開催が難しく、友釣りの終わる10月の最初の休日開催になりやすい。夏休み中に開催するためには「子供専用区」を新しく設ける必要がある。

8) 河川のイベントは、関係機関等に事前に連絡して了解と協力を仰ぐと円滑にできるし、効果も大きい。関係機関とは河川管理者、河川利水団体、小中学校、子供会、自然保護団体、地元愛護会、自治区等である。

9) 参加希望者が多く、申し込みが電話になっていたのが、前日に集中し混乱した。葉書、FAX、E-mail等の申し込みにすると良い。

10) 会場の越戸公園が一般市民にあまり知られていないので、場所の問い合わせが多く、説明に時間を要した。

11) 参加申し込みが矢作川研究所になっているので、一般市民には主催者の矢作川学校と矢作川研究所が区別

されていない。

12) 大会が近づくと申し込み受付や当日の諸準備に追われ、研究所本来の諸活動に影響がある。

第1回掘り大会であったが、関係者の連携と参加者の協力により大変盛り上がったイベントになり、終始子供たちの歓声に包まれた一日になった。協力いただいた関係者に深く感謝申し上げたい。さまざまな課題も明らかになったので、関係機関とも一層連携を深め、課題解決に努めるとともに成果を次回に生かしていきたい。

矢作川学校運営上の諸課題

- 1 総合的学習の出前講師の要請に十分応えていくためには、多数の講師を確保する必要がある。現在、36人を確保しているがシーズンにより、特定の分野に集中する傾向がある。講師の勤務の実態と小中学校の授業の時間帯を考えると、調整は容易ではない。要請の集中する分野の講師は多数確保しておく必要がある。
- 2 総合的学習がスタートしてまだ日が浅いこともあって、小中学校と矢作川学校とは十分連携が取れていない。今後、総合的学習をどう深化拡充していくかについて、関係教育委員会と十分協議をして連絡調整をとっていく必要がある。
- 3 矢作川学校の運営のための役員会、講師連絡会議、実行委員会等の関係者は、多人数でしかも広範の職業にわたる人の集まりであるので、会議が簡単に開催できない。夜間や休日の会議が中心になっているが、日程調整の難しい関係者も多く、学校運営の連絡調整は容易ではない。現在では、大きなイベント前の会議や大会当日が指示連絡や協議連絡の重要な機会になっている。
- 4 矢作川学校の規模の大きいイベントは、矢作川「川会議」、矢作川漁業協同組合、矢作川研究所等の共催事業になることが多い。呼びかける範囲が広がること、参加人数が多くなること、広範囲の会場が必要になること、実行委員会の規模が大きくなること、子供の参加が多くなること、広い駐車場が必要になること、協力業者も広範にわたること、安全性には十分配慮する必要があること等があり、大会事務局の長期にわたる事前準備が必要となる。

豊田市矢作川研究所：〒471-0025 愛知県豊田市西町2-19 豊田市職員会館1F